

## 「協働ガイドブック改訂版」作成における主な検討の視点について

前回の委員会において、協働ガイドブックを作成するに当たっての7つの視点を提示。

- ・視点1：「協働とは何か」を行政職員が理解すること
- ・視点2：「県民活動団体の特徴」、「無償と非営利の違い」  
「ボランティアとNPOの違い」を行政職員が理解すること
- ・視点3：協働の推進方針を示すこと
- ・視点4：協働の手順を明らかにすること
- ・視点5：協働の事業方法ごとの特色、留意点を明らかにすること
- ・視点6：県民活動団体を選定するときの着眼点を明らかにすること
- ・視点7：協働事業の評価方法について示すこと

今回の試案においては、前回委員会の意見を参考に、下記の点に留意して作成した。

なお、概要版を用意し、ガイドブックの全体像が把握しやすいように配慮している。

### 検討の視点1

「協働とは何か」を職員が理解すること

「協働の基本的考え方」、「協働の基本原則、留意点」を詳細に記述

### 検討の視点2

「県民活動団体の特性」、「無償と非営利の違い」、「ボランティアとNPOの違い」  
を行政職員が理解すること

県民活動について、定義や特性など、なるべく分かりやすいようビジュアル化して説明

検討の視点3  
協働の推進方針を示すこと

協働を進めるべき事業はどのような事業か、市町村との関係や民間事業者との関係をどう考えるのかについて再整理し提示

検討の視点4  
協働の手順を明らかにすること

協働の手順を再整理するとともに、事業フロー図も加えて分かりやすさに配慮

検討の視点5  
協働の事業方法ごとの特色、留意点を明らかにすること

事業形態を6つに絞り、個別形態の特色・留意点の説明と、選択フロー図を用意するなど分かりやすさに配慮

検討の視点6  
協働相手となる県民活動団体を選定するときの着眼点を明らかにすること

基本的な考え方を示し、選定の際のチェック項目を参考に、事業ごとに考察してもらう方法を探った

検討の視点7  
協働事業の評価方法について示すこと

一般的な評価の視点のほか、県事業については、事業評価の具体的フローとチェックシートを提示した